

ミドル弁護士の 独り言

弁護士
田中 勇輝

part 3

～ロースクールの思い出～

一昨年から、ロースクールのエクスターンシップ生を、1年に1回、2週間受け入れさせて頂いております。その子供達を見て、自分自身も初心に帰れますが、ロースクールのあり方についても考えさせられたりします。そこで、今回は、ロースクールとはどういうものかということを書いてみたいと思います。



● ロースクールとは

ロースクール、正式名称、「法科大学院」は、2004年に創設されました。法曹人口拡大の観点から、それまでは、司法試験で合格率3%程度だったものを、ロースクールで2年又は3年の法曹養成教育を受けた者は、7、8割は合格できるようにしようとしたものとされています。また、法律のことしか知らない者ばかりでなく、多様な背景を持つ人間を法曹にしようとしたということも理由にありました。

2年というのは、法学既修者コースとあって、法学部卒業生を対象に、大学卒業後、ロースクールに通うというもの、3年というのは、法学未修者コースとあって、法学を学んでいなくても入学することができ、3年間のロースクール教育で法学既修者に追いつくことを想定されています。

当初はこのような触れ込みに対して、多くの志望者が集まり、医師の方がロースクールに入学されたケースも多くありましたし、元アナウンサーの菊間千乃さんがロースクールから弁護士になられたことは有名だと思います。

● ロースクールの司法試験合格率

当初ロースクールに通えば7、8割が司法試験に合格するという触れ込みでしたが、想定以上に、各大学がロースクールを設立することとなり（当初68校）、結果として、ロースクール卒業者の受験する新司法試験の第1回目の合格率は約48%となりました。7、8割の合格者を出すという話はすぐにお流れになったということです。そして、卒業しても合格しなかった者が翌年の受験者に繰り越されていくため、合格率はどんどん下がり、最も低い年の合格率は約20%でした。

しかし、合格者数の少ないロースクールが次第に淘汰されていき（現在43校）、さらに、ロースクール入学志望者自体も減少傾向となったため、合格率自体は、約20%から再び上昇し、昨年は42%となりました。

そのような経緯から、ロースクール制度は失敗に終わったと主張する法曹関係者も少なくありません。

なぜこのようなことになったかという意見は様々でしょうが、一番は政府の迷走でしょう。7、8割の合格者を出すという触れ込みにもかかわらず、多数のロースクールの設立が許されてしまった、それに伴い、合格率が落ち込み、受験志望者が減ってしまうという負のループを招きました。また、法曹人口、特に弁護士人口が増えたにもか

わらず、訴訟件数は増加せず、弁護士の収入の低下が叫ばれ、法曹への魅力が低下しているから受験志望者が減少しているのではという主張も良く聞くとこです。

● ロースクールの生活

では、ロースクールの学生はどういう生活をするのでしょうか。私の生活を振り返ってみたいと思います。日中9時頃から15時頃までは、大体授業が入っており、授業を受けます。そして、その後は、それぞれの自由な時間になりますが、多くの学生は、ロースクールの各自に与えられる自習席で、予習復習や、司法試験に向けた勉強に励むこととなります。帰宅する時間もそれぞれですが、私は、大体は21時か22時頃までいたように記憶しています。また、授業というのも、模擬裁判や、エクスターンシップと言って法律事務所等で実務体験をさせてもらえる等の実務教育もあります。

本当にそんなにずっと勉強していたのか、と思われるかもしれませんが、もちろん、月に2、3回は大学時代の友人やロースクールの友人と飲みに行ったりもしていました。しかし、それでも、少しの息抜きと寝ている時間以外は、ほぼすべて勉強をしていました。当時20代中盤を超え、大学時代の友人達が働いている中、自分だけが親に養ってもらっているという情けなさから、精神的にはかなり追い詰められた状態で、何とか合格までたどり着いたということです。

一昨年、北川景子さんが主演で、「女神（テミス）の教室」というドラマが放映されていましたが、内容は、ほとんど合格者の出ないロースクールの学生達が必死で勉強するというものでした。学生達は、自分達のロースクールではほとんど受からないから、試験対策のためのことだけをしたけれども、北川景子さん演じる裁判官教員が実務的な内容に興味を持たせようと奮闘し、学生達も次第にそれに引き寄せられていくという流れになっています。実は、この学生達の心理は非常に実際のものに近いです。学生達にとっては、やはり、試験に受からなければ何者にもなれないわけですので、試験につながる勉強が一番なのです。

私自身もそのような心境でした。しかし、私としては、試験に合格するために獲得した能力が、弁護士になってからも一番活かしていると思いますので、試験に向けた勉強自体が悪いとは全く思いません。もちろん、ロースクールの実務教育が、全く意味が無かったとも思いませんが、司法試験に合格した後でもできるのではなどとも思ってしまう。

● 今後のロースクールはどうなるのか

私自身は、何とか合格することができ、今に至れているので、ロースクールを完全に無駄だと言うのも難しいですが、如何せん学費も高いですし、私の頃は合格率20数パーセントの時代ですので、合格できずに諦めた友人もいます。それを考えると、今の制度がこのまま続いていけるかとは思いません。

今後のロースクール制度について、私は、今なお続く様々な議論を全て把握しているわけではないので、多くを語るものではないですが、少なくとも、今更ロースクールを全て取り潰しにすることは不可能だろうと思っています。その上で、ロースクール教育の質を改善し、試験合格後でもできる教育は司法研修所の教育に回すなどの制度改善を考えていかなければならぬだろうと思います。